

令和3年度第2回平泉町総合教育会議

日時：令和 3年12月21日（月）

午後 2時45分～

場所：委員会室2

次 第

1 開 会

2 挨拶 平泉町長

3 協 議

(1) 県立平泉世界遺産ガイダンスセンターについて

4 その他

5 閉 会

令和3年度第2回平泉町総合教育会議出席者名簿

(敬称略)

区 分	職 名	氏 名
構成員	平泉町長	青 木 幸 保
	平泉町教育委員会教育長	吉 野 新 平
	平泉町教育委員会教育長職務代理者	本 澤 京 子
	平泉町教育委員会委員	山 平 功 二
	平泉町教育委員会委員	三 浦 英 子
	平泉町教育委員会委員	千 葉 義 信
岩手県	県立平泉世界遺産ガイダンスセンター館長	菅 野 洋 樹
	県立平泉世界遺産ガイダンスセンター副所長	佐 藤 嘉 広
平泉町	平泉文化遺産センター参与	千 葉 信 胤
事務局	教育委員会事務局教育次長	岩 淵 嘉 之
	平泉文化遺産センター館長	千 葉 登
	教育委員会事務局教育次長補佐	千 葉 数 馬
	平泉文化遺産センター館長補佐	島 原 弘 征

令和3年度第2回平泉町総合教育会議会議録

日時：令和 3年12月21日（月）

午後 2時45分～

場所：委員会室2

（岩淵教育次長）

本日は皆様大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただ今から、令和3年度第2回平泉町総合教育会議を開催いたします。最初に、青木町長がご挨拶申し上げます。

（青木町長）

それでは一言ご挨拶を述べさせていただきます。令和3年度の第2回目となります平泉町総合教育会議であります。皆様方には常日頃から教育行政には特段のお力添えをいただいておりますことにも改めて感謝を申し上げたいという風に思います。この総合教育会議を通じながら、今までもなんですけれども、町と教育委員会がまさに地域の教育課題があるべき姿を共有しながら、そしてそれを民意を反映しながら教育行政をけん引していくと云いますか、そういう会議であります。そういった中で今回は11月20日になりますか、岩手県のガイダンスセンターがまさしく町にとっても待望のという言葉がふさわしいかと思っておりますけれども、柳之御所付近にですね、開設オープンさせていただきました。あのとおりに至るまでですね、岩手県は基より平泉町関係皆さんの大変なお力添えをいただいたところであります。今日は今後そのガイダンスセンターと、そして平泉町の従来やっております文化遺産センターの今後の運営、連携の在り方等々は、これは岩手県にとってもまた私たち地域にとっても、周辺地域にとっても大変注目するところでありまして、重要な課題の一つという風に考えております。そういった意味で、先般、先ほどは菅野館長、そして佐藤副所長さんにご説明もいただきながら管内を御視察されたという風に思います。今後、世界遺産登録、まさに追加登録を今進めているなかで大変連携の在り方というのは非常に重要になってきているという風に思っております。単に町と岩手県というだけでなく、奥州市、そして一関市、更には県のガイダンスセンターですから、そういった意味では世界遺産のみならず岩手県の新たな文化財のそれをまた発信できる、発信する、そういう拠点の一つになるということも実は考えられる分野だという風に思っています。内部、今の特別展示室でも今行われておりますけれども、ああした世界遺産関連のみならず、県内のそうした文化財をクローズアップしながらですね、地域を、岩手の文化財をさまざまな角度から紹介できるコーナーも設けていただいたということは、また新たな発信力がですね、出てくるものだろうという風に考えております。いずれ今後、拡張登録も含めながら、それは日程としても新たな地域の魅力を発信していく大きな軸となっていくものと考えますので、どうぞ今後とも皆様方のご指導も賜りながら、そして岩手県とも連携を取りながら進めさせていただきたいという風に思いますので、特段のお力添えを賜りたいという風に思います。本日は、館長、そして副所長には何かとご多忙なところをご出席いただきましたことに改めて感謝を申し上げながら私からの挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(岩淵教育次長)

ありがとうございました。本日の出席者につきましては、お手元の名簿をご覧いただきたいと存じますけれども、町長、教育長、教育委員の皆様のほか、岩手県からお二人、平泉町からお一人ということでご紹介させていただきます。岩手県からですけれども、県立平泉世界遺産ガイダンスセンター館長、菅野洋樹（かんのひろき）様でございます。

(菅野館長)

菅野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

(岩淵教育次長)

同じく副所長の佐藤嘉広（さとうよしひろ）様です。

(佐藤副所長)

佐藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(岩淵教育次長)

平泉町からは、平泉文化遺産センター参与の千葉信胤様です。

(千葉参与)

千葉です。よろしくお願ひいたします。

(岩淵教育次長)

以上の皆様で進めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、お手元の次第に基づきまして、3の協議ですけれども、会議の進行は吉野教育長にお願いいたします。

(吉野教育長)

それでは、平泉町教育委員会教育長の吉野でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは進めさせていただきたいと思いますが、平泉町総合教育会議運営要綱第3に、会議は、「町長が招集し、町長がその議長となる。」となっておりますが、以前より、町長の方から、教育長に進行を務めていただきたいという事で委任されておりますので、私の方で進めさせていただきます。宜しくお願ひいたします。

それでは本日は、県立平泉世界遺産ガイダンスセンターの館長さんにもお越しいただいております。先ほど、現地にてガイダンスセンターの施設について説明を受けたところではございますが、改めましてまず初めに、平泉の価値を広く世界に伝える拠点施設としての役割等につきまして、お話をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(佐藤副所長)

それではお手元の資料に基づきまして副所長の佐藤の方からセンターの概要についてご説明させていただきたいと思ひます。恐縮ですが座って説明させていただきたいと思ひます。資料1ページ目でございますけれども概要でございます。6番の設計、施工のところでございますけれども、設計につきましては三衡設計舎さん、それから建築につきましては平野組さんが担当されております。それから、電気設備、機械設備はご覧のとおりでございます。展示設計につきましては丹青社さんにしていただいたところでございます。7番の運営形態のところでございますが県が直営でやっておりますが、一部事務につきまして広域財団法人になります岩手県文化振興事業団の方に委託させていただいているところがございます。総工費につきましては約23億ということで、現在最終的な精査中でございます。敷地面積、延床面積はご覧のとおりです。公開面積でございますが、先ほどご覧いただきま

したように展示室が常設展示室と企画展示室と併せて 550 m²ほど、全体としてはエントランスホールを含めまして 1,000 m²ほどでございます。展示資料でございますが、300 点のうち 157 点は重要文化財ということになってございます。なお、企画展示は 27 件の点数となっております。職員数でございますが、これ数え方いろいろあるのですけれども、館長以下 22 名が概ね毎日いる出勤、館長は週 2 回ほどの勤務でございますが、ほか毎日交代で勤務しているようなかたちであります。休館日でございますが月 1 回月末になってございます。それからここには書いてございませんが、年末年始は休ませていただく予定となっております。開館時間はこの時間でございます、この開館時間につきましては柳之御所公園と併せているところでございます。入館料、駐車場等につきましては以上のとおりでございます。設備でございますが、ちょっとこれに加えまして今後 1 か月が経過しまして、今必要と思っているような例えば、ベビーカーとか、歩行を補助する高齢の方が押して歩くようなそういったものなども備えていく必要があるのかなという風に思っているところであります。2 ページ目でございます。2 ページ目につきましては、この施設の基本計画ということで、平成 30 年に策定させていただいたわけでございますが、そこからの抜き書きになってございます。2 年、それから基本方針、理念はご覧のとおりでございますが、基本方針は、5 本の柱ということになってございます。まず一つ目としまして、世界遺産平泉の価値を理解できる施設。それから 2 番としまして個々の構成資産を訪問する契機を提供する。3 番目としまして資料を後世に継承する。4 番目としまして学術情報の集積活用。5 番目としまして、人材の育成の寄与ということになってございます。この方針を達成するために 3 番に掲げたような事業を展開しているものでございます。3 ページ目でございます。これも事業展開イメージということで、これ基本計画段階にこうしたことができればいいのではないかなということで作ったものでございますが、現在これをすべて実施できているわけではございませんが、こうした考え方の基で展示、情報発信、体験学習、修造保存管理、調査研究情報集積等を行っていく予定でございます、併せまして連携していくものとして平泉の文化遺産を管理、活用している各施設等、それから周辺の関連施設、或いは県内の小中学校周辺地域の方々、ガイドの団体の方々、そして外部の研究機関の方々と連携を深めて行きたいということで考えてございます。それに併せまして下の方でございますけれども、利用者にはこのようなイメージでガイダンスセンターを捉えていただければいいのではないかなという風なことで構想したものでございます。続きまして 4 ページ目、5 ページ目でございます。4 ページの方は平面図でございますが、駐車場と施設の関係でございます。それでこの敷地はご案内のとおり旧柳之御所資料館及び平泉遺跡群調査事務所が建っていたところでございまして、その敷地をそのまま使っております。さまざまな制約のなかでいろいろな条件のなかで平面プラン等を作っておりますので、少し変則的なかたちになっております。一方、道路を挟みまして道の駅平泉がございまして、外観的な景観は道の駅平泉に併せて景観にインパクトになるようなかたちにさせていただいたところでございます。5 ページ目でございます。5 ページ目のこれは少し見づらくなっておりますが各室の面積、配置等を書かせていただいております。設計段階のものでございまして、多少現在のものと基本的に違っておりますが、イメージとしてはこのようなものでございます。以上、センターの概要について紹介させていただきました。ありがとうございました。

(吉野教育長)

ありがとうございました。今、ガイダンスセンターの役割等について、大まかなお話をいただいたところではありますが、続きまして、平泉文化遺産センターの役割等につきまして、お話をいただければと思います。平泉文化遺産センターの参与をお願いします。

(千葉参与)

それでは、平泉文化遺産センターのことについてお話をしたいと思います。そもそも現在の平泉文化遺産センターは、平成21年にリニューアルしまして、それ以前は平泉郷土館という名前で町の資料館のような位置づけでございましたが、平成21年に現在の姿にリニューアルされたものでございます。その経緯を申し上げますと、実は平成19年にイコモスによる現地調査が入りまして、その際にそういった来訪者が平泉の資産価値について理解できるような場所というのがどういう風な構想があるのかという質問がありまして、それに対してガイダンス施設を作る予定であるという説明をしておりました。その時に、もうすでに県のガイダンス施設の構想はあったわけなんですけど、実現には若干の時間がかかるということで、保管的な意味合いで平泉郷土館をそういったガイダンス施設として改修してやっていったらどうだろうかという話が県と町の間で協議が行われまして、取りあえず保管的な意味合いで平泉郷土館を文化遺産のガイダンス施設というようなかたちで展示改修等を行いました。施設の改修をですね、その段階でもうすでに県で柳之御所遺跡の周辺、所謂道の駅の周辺に将来的にきちんとした県のガイダンスセンターを造るという予定ございましたので、そういったことはもちろん織り込み済みで改修に入ったわけです。その段階で考えられたのは立地から云いますとあの当時ですね、パークアンドライドで考えた場合には、道の駅の周辺に中心になるガイダンス施設があって、そして町内の各資産を回遊して回るという計画だったわけですね。その場合、現在の新しい平泉文化遺産センターの場所というのは立地から云いますと中尊寺と毛越寺という主要な資産の中間に位置しているということにして、あくまで街歩きの間での立ち寄り場所、特に休憩とトイレと、そういった便益の施設でもって対応すると。ただし、所謂そういったガイダンスの部分というのは当初から織り込み済みでございましたので、例えば中尊寺から毛越寺に回る来訪者にとっては中尊寺の復習をしながらこれから回る毛越寺についての事前の学習をするような簡単な展示をやろうと。展示の内容につきましては、その当時館長をしておりました大矢邦宣先生に全面的に監修していただきまして、基本まず時系列の展示、古い時代から現在に至るまでの内容をトピック的に資産を中心にしながら詳しく解説するというそういう内容での展示になりました。そういうことがそもそもの平泉文化遺産センターのガイダンス施設的な要素でございます。そして現在ですね、県のガイダンスセンターがようやく念願のものが出来上がって、これから先のことについても申し上げますならば、基本的には緊密に連携しながら来訪者に対する対応については同様のかたちを取らせてもらえればよいなと思っておりました。ガイダンスセンター或いは平泉の文化遺産センターどちらも来訪者に対しての展示なりレファレンスとしての機能と別にそれぞれ遺跡調査とかですね、そういった関係の目に見えない部分ですけども、そういった役割というのはもちろんありまして、そちらもまた非常に重要なわけですよ。ですから、そういったことをすでに連携しながらやっているわけですので、ガイダンス的な要素についても連携しながら、もう少し広い意味で云いますと県の計画の方でもございますように、近隣の関係、周辺の関連施設、例えば、一関ですと

一関市の博物館ですとか、或いは所謂骨寺の若神子亭のような施設と共に平泉文化遺産センターのそういった平泉の文化遺産全体を紹介していくような、言ってみれば一種のサテライト的な役割等を担っていくことになるんだろうなど。そういったことでですね、恐らく岩手県さんの方でもお考えでこういった事業展開イメージなんかでも捉えていらっしゃるだろうなど了解しておりました。以上でございます。

(吉野教育長)

ありがとうございます。ガイダンスセンター、文化遺産センターよりそれぞれ説明いただきました。大変ありがとうございました。これから平泉町として、この2つの施設への関わり方とか、活用の仕方等について、今日ガイダンスセンター視察してきたばかりですので、そういう感想も含めて思われていること等を織り交ぜながら教育委員さん方からお話を頂戴できればと思っております。いかがでしょうか。感想も含めて構いませんので。千葉委員さん、どうですか？

(千葉委員)

非常に立派な施設で拝見いたしました。ちょうど説明をしていただいたのが平泉町出身の方だったというところで非常に良かったです。それが一番の感想でした。一つ思ったのがですね、一番最初の説明の中で、説明をいただくのは団体の方のみという風なお話だったのですが、どうも今日の状態を見ますと非常に何人かご覧になっている他のお客様がいましたがやっぱり聞きたいんでしょうね。寄って来て同じようなお話を一緒に聞いている方がかなりおりましたので、できましたら要望があれば団体ではなくても説明をしていただけるようなかたちを取っていただけると余計にいいんじゃないかなと思います。もう一つは説明を聞きながらぐるっと見たのですが、そうすると非常に中身的にもかなり詳しく説明されているので今度は現場に行って毛越寺、中尊寺の中に入って風を感じたいと思うような感じになるのではないかなと私個人としてはそう思いましたので、その辺を含めてもできれば個人でいらっしゃる方にも案内をしていただけるようなかたちを取っていただけると非常にいいんじゃないかなという風な希望でした。

(吉野教育長)

いきなり要望でしたけども。

(菅野館長)

基本的には、やはり団体の方向けというイメージは持っているのですが、解説員は実は5名しかいません。それも回していますので、1日にいる解説員はやっぱり3名くらいという日もあります。ですから、ご要望があれば現在は対応しています。ただ、すべての個人のお客様に全部対応というのはなかなか物理的にいかないものですから、一つは解説員で対応を申し上げると、もう一つは音声ガイドを用意してございまして50個あるのですが、多国籍語、所謂、日本語、英語、中国語、ハングル、この4か国語に対応した機器も貸し出してございますので、この両方でできるだけお出でいただいたお客様に解説というか、声でご覧いただけるような体制を取っていきたいと思っております。

(吉野教育長)

他にいかがでしょうか。

(本澤委員)

ちょっとお尋ねしたいことが、県の方々に。ガイドは今本当に丁寧に説明していただいて

ゆっくり今日は初めて拝見できて凄く良かったのですが、ガイドさんというか、建物の中の展示のみのガイドなのでしょうか？それともまだスタートしたばかりなので、今後、例えば、柳之御所そのものの堀とか、柳之御所のエリアを全部歩いて本物と云いますか、それをガイドしていただくとかそういうのは希望があったりすれば可能なのかどうかそういうことを考えていらっしゃるかどうかお尋ねしたいですが。

(菅野館長)

可能か不可能かというところも可能です。ただ、どうしても人数的な制約がございますので、今日先生方にご覧いただいたのがだいたい1時間コースなんですけど、そして柳之御所もずっと歩くとなるとやっぱりかなりの時間を取られます。その時間帯をそこに張り付ける格好になりますので、その辺はあれですね。ご相談、予め特に団体の方の場合は事前にお申し込みをいただいて、どこまでご希望をされているのか、どのくらいの時間なのかということをご相談させていただいて調整をさせていただきながら対応していくことになろうと思います。また今日ご説明を申し上げた解説員、あの周辺だけではなくて、実は町のこともいろいろ勉強させていただいてまして、例えば町の観光施設にこういったものが専務さんにもいろいろご指導いただいているのですが、そういった知識も一緒に踏まえましてできるだけお出でいただいたお客様が平泉町全体をご理解いただけるように私ども工夫して参りたいと思っております。

(本澤委員)

中の展示でもあったのですが、例えば柳之御所が本当に守られた。本当に道路ができないで済んだ。バイパスがね。北上川まで動かしたという国の英断もあったわけで、国土交通省がそういう結論を出して下さってあそこが守られたわけで、そういうのも中の展示で十分分かりやすく地形図とかね、模型があって本当にいいんですが、それを本当のサイズというか外に出てその辺の川が本当はそこまで来てて、それを動かしてそこに道路が新しくバイパスも動かせることができたんですというのが来た方が実感していただくと、凄く柳之御所の価値も凄くぐっと上がると思いますのでそういうこともあったらいいなと思いつつ今見学させていただきました。以上です。

(山平委員)

今日はありがとうございました。今日で私4回目の来館となりました。先週も実は山形、宮城とエージェント回りを兼ねて行ってきまして、このガイダンス施設についてご紹介しているところで、見ておかないと説明ができないので、きちっとお話してきたつもりでございます。やはり皆さん、興味を持っている施設になりますので、特にも学校長自らが勉強してですね、旅行会社が実は知らなくて学校長の方からこういうものがあるんだけど、話があったようでして、非常に皆さん興味を持っているところですので、頑張ってプロモーションしていきたいなと思っております。そういった中でお話してはいたけれども、ちょっとしたプロモーション映像とかがあると非常に説明しやすくなるなと思っておりますので、そういったところ今後ご検討いただきたいなと思っております。また、団体のところで説明員が付くということなんですけどやはり個人向けにもしっかりやった方がいいなと思っておりました。そのエージェントに向けても団体に向けて対応していますという話はしておりますけれども、あと恐らく団体ですとバスで来られる修学旅行等が多くなると思っておりますが、一応安全を見て道の駅を利用した方がいいですという話をしております。体験ものもやっている

とはすみません知りませんが、協会のホームページとかにも貼ってご紹介したいなと思いますのでよろしくお願ひいたします。あとちょっと厳しいことを言うかもしれませんが、先日新聞に投稿があったようなことがありました。そういったところは私どもも気を付けながらやっているところがございますが、なるべくそういったことが無いように今後やっていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

(三浦委員)

はい、ありがとうございます。私は初めて見学させていただいて今日は解説の方も本当に丁寧に細かいところまで解説いただいたので、平泉の歴史とかその価値とか大変分かりやすく興味を感じました。ほかの方々もきっといらっしゃった方は更に平泉に対して興味をお持ちになるだろうし、それからもっと別の場所にも行ってみたいなと思われたいと思います。観光としても大変拠点になると思ひましたし、修学旅行、県内や県外の修学旅行と学校教育とか地元に限らず勉強になる場所だなと思ひました。町民にとって或いは来た方にとってはここが県の施設、それから町の施設というのはまったく分かりません。それで今、遺産センターの先生からもご説明があったのですけれども、正式なものが今回出来たと。文化遺産センターは保管的な施設であったというお話を初めて聞きましたので、これから文化遺産センターとそれからガイダンスセンターと連携を取りながら、どちらもですね、活用していただけるような施設になって行けばいいなと思ひます。その特徴は、それぞれガイダンスセンターの特徴、文化遺産センターはこういう特徴というような、これから打ち出しながら先ほどお話もありましたが緊密に連携しながら進めていただければと思ひます。ありがとうございます。勉強になりました。

(吉野教育長)

ありがとうございます。私、個人的な感想を含めてお話させていただきますと、まず平泉文化遺産センターが先ほどのお話のとおり、暫定的に県ができるまでの間ということで始まったわけですが、今回県の施設ができたことによって、やっとなですね、暫定的という言葉が取れて文化遺産センター本来の役割というか、文化遺産センターの役割が始まっていくのかなと感じは受けております。展示内容についての比較で言えば県のガイダンスセンターは凄く立体的で体験的なセンターだなという風に思ひて、ガイダンス的には凄くとっかかりの興味を引き付けるような工夫がたくさんあって、裾野が広がるのかなというような感じを持ちましたし、逆に文化遺産センター、その時間軸でしっかりと平泉の安倍氏の時代からゆっくりと自分の歩幅で歴史を感じていく施設じゃないかなということで、これもまた凄く魅力的で歴史に興味のある人たちはとても楽しみに回れる施設じゃないかなと思ひますし、それぞれ役割が明確にある以上、お互いの良さで進んで行ければなと思ひし、町としても何か応援したいなといろんなかたちで応援したいなということで、今日の会議にはなっているわけですが、地元としてですね、何か県の施設に応援できることは無いのかなと、関わること無いのかなと思ひながら今聞いていたんです。館長さんがちょっと人が足りなくてなかなか団体しか対応できないとかという話を聞いていくなかで、例えば平泉にはガイドの会とか、ボランティアの人たちがたくさんいるわけですよ。その人たちを上手く利用して、その人たちが県のガイダンス施設に入って、誰彼というわけではないですけども、登録したボランティアが入って行って案内して歩くとかというようなことになれば、中も説明もできるし、それからじゃ外に出て歩きましょうかという本澤委員さ

んの課題も解決できるのかなと思いながら聞いていたのですけれども、そういう連携はいかがなんでしょうね？ざっくばらんにお聞きしたんですけれども。

(菅野館長)

先程、副所長がご説明したなかには実は人材の育成というのが一つ役割として入ってございまして、今教育長さんが仰ったことを将来的な課題としては私どもも県も認識してございます。ボランティアの方々と一緒にやらせていただいて、いろいろ今後進めていく。今私どものガイダンス施設始まったばかりですので、まずじっくりと足元を固めながら、今教育長さんが仰ったような方向で、県もそういう問題意識を持ってこの施設を立ち上げたということについてはご理解賜ればと思います。

(吉野教育長)

じゃお互いそういう夢を持ちながら進めて行ければいいかなと思っていましたけれども、皆さんいかがでしょうかね？ほかに。

(本澤委員)

県の方の施設に町の文化遺産センターの役割が今ここで県がスタートしたことによって少し負担、何ていうかな、何かお願い、お任せできる部分が出てきたのか、そして町の文化遺産センターが少し余裕って言ったらちょっと表現的確かどうか分からないですがもしそういうことが出れば、例えばちょっと常々私気になっているのは、確かに平泉町は世界遺産の町、藤原時代の藤原文化ということに特化したような町と言えるんですが、全国の方々の目を見てもね、でもただこの市町村でも例えば庶民の歴史、要するに藤原文化の前と遡れば縄文時代からですが、その頼朝に滅ぼされた後の平泉の歴史というところに庶民の歴史みたいなものがあつたはずなので、そういうところが博物館とか、前は郷土館でしたから例えば民俗学的な町の財産なんかも展示したりして、そういう町民の歴史みたいなのも町民の皆さんに見せていくという役割も以前はあつたように思うので、もしそういうことが徐々に少し余裕が出てというか、なんか変ですが、できるようになるのであればいいと感じますので。例えば長島地区の方ももっとスポットを当てて行きたい感じがしますし、平泉町としては、そうなる縄文時代の長島の方はそういう価値が見せられますのでそういうところが大変なのかなと思うのですが、希望です。町民ともうちょっと町の文化遺産センターの方は気軽に行ける町の人たちが、子どもたちもさっと寄って勉強できるような平泉のことについて。そういう役割をちょっと増やして行っていただけたら有難いなと今感じました。

(吉野教育長)

常時展示になるか、例えば企画展になるかっていうこともあるしね。そういう、それこそ大昔の部分から平成、現代までのところで、そういう展示というのは、実際文化遺産センターの地下にいろんな資料が眠っているわけですよ。それを上手く展示出来たらなというような部分ももしかしたらあるのかもしれない。その点で云いますと県のガイダンスセンターは、まず世界遺産を中心に広がっていくわけですがけれども、平泉文化遺産センターは町の歴史について展示できる部分があればなっていうご意見をとと思いますが、どうですか、信胤さん。

(千葉参与)

そうですね、展示そのものについてはスペースの問題とかですね、グレードの問題も出て

くと思うんですね。何しろ今の展示は岩手県さんの本当に後ろからを押してもらってですね、宝くじで1億円押さえてもらってそれでやった展示なんですよ。で、所謂企画的な小さな展示というのはそのものはですね、館のなかの職員がいろいろ工夫して小スペースなんですけれどもやってきているところあります。例えば、日本遺産に平泉も入ったということになれば日本遺産を紹介するようなコーナー作ってみたりとか、今回は縄文の世界遺産の登録なんかがあると平泉に縄文に関係するこういうものがありますよというのを展示してご覧に入れられたりとかですね、そういうことはできるんですけれども、なかなかですね、ややテーマ展的な企画の特別展とかそういうのになると難しいところはあるかな。面積というかスペースの問題なんですけれども、でもそれは私も常々感じているところでして所謂やはり来訪者の多くは十二世紀の平泉藤原文化というものでいらっしゃるわけですので、それは絶対外せませんので、その所謂前後ということですか、或いは現代に近い部分というのはやはり凄く重要な部分でして、町の人たちとの関わり合いという部分からもですね、何か手は打たなきゃだめだとは思っていました。気持ちは良く分かって存じております。

(吉野教育長)

いかがでしょうか。合同企画なんかは将来的に一緒に企画して展示するとか、イベント等やるっていうのは、町としても一緒だったらいいなと思ったりするんですけれども、いかがでしょうかね？

(菅野館長)

それは、ご相談をさせていただきながら、いろいろなテーマを持って、特に今千葉先生も仰いましたが、私どものセンターにしても、今日ご覧いただいたとおりの面積の制約がどうしてもあるわけですから、大規模な学校から300人来たいんですと言われると正直言って対応できないです。ですから、そういった場合にガイダンス機能をどう果たしていくのかと云いますと、私どもとそれこそ文化遺産センターさんで上手く役割分担させていただきながらやっていくとか、いろんな連携のやり方あると思います。合同のテーマ展を企画するとか。ですから、まだ何回も申し上げて恐縮ですけれども、立ち上がったばかりで私どももまだまだよちよち歩きの所がありますので、これから少しずつ良い方向にいろんなことを考えて参りたいと思っております。

(千葉参与)

よろしいですか。今回の開館に併せて七仏薬師の展示、私、拝見しながら思ったのですがやっぱり平泉文化というのがこの現在の平泉町内ということではなくてですね、岩手県はもちろん東北地方に広まって行った仏教文化の素晴らしさとか、或いはいろんな主要な拠点の遺跡とかいっぱいあるわけですよ。何かこれから先、ガイダンスセンターの方でそういった広がりを紹介しつつですね、所謂遺産群の拡張登録なんかには上手く結び付けばいいなと期待しております。ご協力お願いします。

(吉野教育長)

私だいたい喋って申し訳ないですけども、今日凄く嬉しかったことは、案内してくれた方が平泉町内の方ですね。凄く緊張しながらも、しっかりとガイダンスしてくれたなということも嬉しかったのですが、いずれときめき世界遺産塾という一関地区から始まった子どもたちの育成です。それがだいたい10年以上続いていまして、もうほとんど二十歳を超えて

若者になってきています。この繋がりをこれからもずっと続けていきたいと思っている時に、やはり小中とかは、まず町で面倒を見るんですけれども、高校以上になるとなかなか平泉は高校が無いものですからね、そういう子どもたちの育成に関わっても、何かお手伝いをいただけるものはないかなと思いつつ、今日は嬉しいということの半面、そういうお願いもしてみたいなと思った次第でございます。

(山平委員)

見る限り、各自、回る前にやっぱり拝見するべきかなという風に思っています。ところがやはり車で来られる場合にはダイレクトに行けるからいいのですが、駅で降りて巡回バスに乗った時に最後に行ってしまうんですね。町の方では、もう2年ぐらい前からずっとお話しはしているんですが、逆コースであるとか、巡回ルートというのは考えなきゃいけないと思っているんです。で、そうこうしているうちに開館になってしまったんですが、町の方は何かしているでしょうか。多分今は無いと思うのですが。るるんの巡回バスのルートが今最後に道の駅に行っているんです。そうすると車で来られる場合はダイレクトに行けるからいいんですが、駅で降りて歩くことはできるけど、巡回バスに乗った場合には最後に行ってしまうところは改善すべき点だと思う。

(岩淵教育次長)

そこはいろいろ施設を周るといふなかで、観光という大きなテーマがあるなかでのるるんバスというところでしょうから、いろいろ生活バスのことであたりとか、より今検討し始めて来ているところだと思いますけども、その一つの課題として検討することが必要かなと思います。

(吉野教育長)

ある意味始まりの場所であってほしいということですね？

(山平委員)

はい。そうですね。

(吉野教育長)

ここから始まって。

(山平委員)

単純に逆コースとか、検討の価値はあるのかなという風に思っているんですけどね。

(三浦委員)

私、昔の人たち、文化遺産センター、未だに郷土館と言う人もいたりしてですね、それで世界遺産登録の前後に世界遺産登録を目指して名前が文化遺産センターと変わって、リニューアルしたんだということを改めて考えた。思ったりもして、そうなるかと先ほど本澤委員さんが仰ったように、やっぱり平泉の最大の特徴は藤原文化なので、世界遺産登録のその時期なんだと思うんですが、やっぱり平泉にはそれとはまた別に歴史が、まずあったわけで、そのなかの一つとしての藤原文化にスポットライトが当たっているんですが、やはりその流れというかそれもやっぱり大事にしなきゃいけないなということ、やっぱり今改めて思ったりもしましたので、本当に新しい施設ができたということから、特徴としてやっぱり平泉の歴史というものも知れる施設としての文化遺産センター、名前が文化遺産センターとなつてはいますけれども、やっぱり郷土館としての役割もこれから更にクローズアップできたらなという風には思います。それを平泉の歴史について研究なさっている方もい

らっしゃると思いますし、もっとその前後、先ほどお話に出ていましたが、何かもうちょっと子どもたちにも教えたいなという感じがします。

(千葉委員)

これは平泉町の方へということなんですけれども、今日、初めて見たので来ていらっしゃる方に対してということは当然のことながら、私今日初めて拝見して町民に是非見てもらいたいという風に思いました。当然子どもたちのこともそうなんですが大人の方々、実際、私も水泳は毛越寺の大泉ヶ池で水泳を覚えた人ですから、そういったことで育った人間が多いのですが、それにしても実際にああいう風なことを見てみる機会は非常に少ないと思います。なので、県の方で直接お願いするよりは町を通して平泉町民優待日ならぬものを作れるような恰好をしながら、道の駅を絡めるなりっていう風なことで、町民の方々に是非一度見ていただいて、そうすると実際ほかから来た親族、親戚の方々にもあそこもいいし、ここは文化遺産センターに行けば分かるよということを含めての今後の展開の基になるんじゃないかなと思ひまして、その辺は是非、町の方を通してそういうことをやっていただきたいという風に思います。

(吉野教育長)

教育委員会でも全世代型の平泉学っていうのを進めているところでございますが、今回のガイダンス施設のオープンに伴って、町民が改めて平泉を自分たちを知るという良い機会をもらったんじゃないかなと感じております。ガイダンス施設に行っているいろんなことを再度確認して、更にまた今度は、じゃ昔郷土館だった平泉文化遺産センターにも行ってみようっていう風に、また広がって行けば、町民にとってもとても素晴らしいことじゃないかなと改めて思いますので、この良い機会を是非有効に、町民も使って行きたい。町民が一番分からなければ広められないのでね。何かそれを千葉委員さんの話が一番最もだなど思いましたので、ありがとうございました。

(本澤委員)

自分が、改めて私自身もいろいろ頑張って行かないといけないなと思ひましたし、是非、町長さんのご意見も聞きたいです。

(吉野教育長)

菅野館長さん、今までのお話をお聞きになって、感想でもよろしいですので、何か一言いただけると有難いです。

(菅野館長)

大変有難いお話をいろいろ頂戴いたしました。ありがとうございます。11月20日に開館したばかりということで、まだまだ不十分なところはございます。先ほど専務さんからもお話になったとおりいろいろな課題は持っていますが、今日は実は職員に初めから百点満点取ろうと言ったって無理なんだから、まず一つ一つやれることを積み重ねて行こう。その結果、お出でいただいたお客様が来て良かったなと思われる施設になるんだから。そもそも初めから百点だと下がる一方だからねという話はちょっと笑い話では言ったのですが、今日いただいたご意見を踏まえまして、私どもとして来年度に向けて何がステップとしてできるのかということいろいろこれからも検討させていただきながら、特にはやはり町との連携は凄く大事だろうと思ひていますので、いろいろあの施設ができて、町にとって良かったなと思ひただけのような施設に少しでもなれるように努力して参りたいと思ひていま

す。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(吉野教育長)

とっても有意義なお話を聞かせていただいたなと思うと同時に、いろんな夢が膨らんだなという会でもございました。いろんな可能性がある二つの施設ですので、是非、みんなで盛り上げて、町民が盛り上げて行ければと思うし、それから次世代を担う子どもたちをしっかり育てて行きたいなという声も、また夢だなと思いました。これで最後になりますけれども、町長から一言。

(青木町長)

今日、委員の方々が施設を見ていただいてそれぞれに想いもあったろうし、またそのとおりの感想もあるだろうし、今、教育長からの話もあったように、いろんな夢がね、展開できるなど、館長さんが仰ったように、やっぱりこの施設は訪れた方々にここ発信するというそういった大儀もあると思うんですが、やはりそこに住む人たちですね。先ほどこういったことやれらたら町民、千葉委員が言ったように町民にぜひ見てもらいたいって言ったように、私たちが中学校の時代は、私今67歳ですから恐らく40年も50年近い前の話なんですが中尊寺金色堂社会の本で初めて見て、平泉の中尊寺ってこういうことなんだと初めて見たのが中学校の本であります、私たちは。というようにですね、やっぱり今回の価値を皆で知るといのは、まず地元の人たちが自分たちの文化に更に誇りを持っていただくというそういう部分だという風に思います。そういった地に住む人たちが、そういうことを感じると、やはり訪れた人たちに、例えば町中リュックを背負って歩いて観光客に例えば資料館、ガイダンスセンターはどちらですか？とか、例えば前の郷土館、文化遺産センターどちらですか？あなた達、柳之御所にあるガイダンスセンターをまず見てから中尊寺、毛越寺を見た方がいいですよとかって、町の人たちが、少しでもそう言う人達が出てくると、ここの町の人たち凄いなど。先日、教育長でしたか、毛越寺通りを歩いていたら子どもたちがちょうど帰る時間だったらしいんだけども、小学校の。みんな子どもたちが「さよなら、さよなら。」と声をかけてくれた。そういうことだと思うんですね。今日はちょっと時間が無いからまた今度は女房を連れて来ようとか、友達連れて来ようとかってなっていくためには、本当に平泉の今回のガイダンスセンターが、そこに発信するという事で実は私はやっぱり地域のレベルもこの機会に上げていきたいというように思うんです。となると、今平泉学を学んだ子どもたちが今社会人なんですね。実は今日アスモ、一関のFMなんですけども、取材あんたですよ。そこの取材で働いている子が佐野の出身で小野寺さんという方なんですけれども、この間、産業文化祭の時に純情娘で来ていた女性の方なんですけれども、やっぱり当時平泉学を学んだ生徒なんです。名前はちょっとど忘れしたんですけども、見たことあるなと思って声をかけたら、実はアスモさんが言うには、どこか平泉の子どもたちは違って来ていると。だからって、一関がだめだという意味じゃないですよ。でもそういうのを自信を持って、ですからうちの方でもアナウンスと云いますか、そういう人を使いたいと。やはり平泉を案内してもらうには、やはり地元のそういう人たちが、どこか言葉の一つ一つが、どっからか来て頼まれた人が喋るのはまた違うって、その面持ちが違うというか。そういうこと今日偶然に午前中の取材の時にお話を受けたんですね。そういうように、やっぱりそういったことも今回のガイダンスセンターと、そして平泉の今後の文化遺産センターと地域と県と私たちが連携する大きなキーワードと云いますか、何となくそういうことが、期待

が膨らんでくる、膨らませれる。まさにこれからスタート地点なんですけども、あんまり、これもあれも一気に膨らませていかないで、時間をかけながら、ある意味で進めるものは進めて、時間をかけなくちゃいけないものは地道に、というそういう連携を今後取っていただくと、本当の意味で平泉という、そういうものだけの地域だけの発信じゃなく、今、一緒に奥州、一関と世界遺産の追加登録、拡張登録目指している。それは結果として全部認定になった、ならないに関わらずに、この連携はやはり平泉だけのまさに文化遺産ではなく世界の文化遺産に、そういった地域全体の連携というのを大事にして行くことによって、それがいずれは肩肘を張らなくても、むしろ周辺地域で一緒に取り組んでいただくと、自ずとそういうのが目的のようなものが、達成出来たり、見えて来たりするのではないかなという風に今、今日初めて見た方もあるし、何回か見た方もあるんですけれども、私たちも普通、よそに行く一回見たらいいやと思うのはあるのですが、地元においても次はあそこもう少しじっくり見て来ようと思ったり、そういった意味では皆さんで今後しっかりと情報共有をしながら進めさせていただきたいと思えますし、ある時には無責任な話をしているから、ここで言うと全部議事録ですから、たまには無責任な話をします。そういう場面もあってもいいんじゃないかなというような、それは当然、館長さんも副所長さんも交えての話、いないところで言うと悪口だったり、陰口みたいになったりしてはいけませんので、お互いに向き合っているから、いろいろそういう情報交換もいいのではないのかなと。今日は本当に貴重なご意見、お話を頂戴して私も正直言ってほっとしているところではありますが、ほっとするのをつかの間、また日々皆さんと協調しながら進みたいと思えます。どうもありがとうございます。

(吉野教育長)

皆さん、本当に貴重なご意見ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

(岩淵教育次長)

本日はありがとうございました。今後とも連携するきっかけができたかなと思えます。菅野館長さん、佐藤副所長さんには今後とも引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして、令和3年度第2回平泉町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。